

第2章 ソーシャルキャピタルの醸成要因と取り組み

阪神・淡路大震災の復興の推進力となったソーシャルキャピタルの醸成に向けて、民・学・産と行政の各主体の役割について調査研究を進めるため、平成18年度に「ソーシャルキャピタル協働政策研究会（以下SC研と略）」を設置した。SC研は、事務局を神戸都市問題研究所に置き、行政側からは市民参画推進局、保健福祉局、都市計画総局、消防局、東灘区、長田区、垂水区の担当職員が参加した他、北須磨団地自治会、六甲アイランドCITY自治会、神戸市シルバーカレッジ卒業生で組織されたNPO法人であるグループわ、近畿タクシー、神戸大学ヒューマン・コミュニティ創生研究センターなど、市民・大学・事業者側からもメンバーを招き、また、アドバイザーとして神戸市地域活動推進委員会委員で同志社大学社会学部の立木茂雄教授、同大学の柴内康文助教授、武庫川女子大学の水野優子助手、スタジオ・カタリストの松原永季代表に指導をいただいた。このように多様な関係者（ステークホルダー）の協働と参画を通じてソーシャルキャピタルの形成促進要因について、事例検討と実証分析やアンケートの調査結果の考察を毎回繰り返してきた。

本章では、この結果の概要について、紹介する。

1 ソーシャルキャピタルの構成要素の仮説

(1) 研究会メンバーによるワークショップとその結果

神戸におけるソーシャルキャピタルの構成要素を把握するための最初のステップとして、研究会参加者全員による親和図の作成を行い、それに基づき仮の定義を設け、今後の調査・分析の指針とすることとした。親和図の作成は、KJ法によるワークショップ形式で実施し、テーマを「地域のつながりを豊かにするために必要なこと」と設定し、全員で検討することとした。

1) ワークショップの方法

・参加者：研究会メンバー

・日時：平成18年7月7日午後4時～6時

・方法

第1段階：8名程度のグループに分かれ（2班）、テーマに沿ってKJ法で整理する。

第2段階：整理した内容を、各班相互に発表し合う。

第3段階：各班の整理を参照し、再度個別の意見を全員で確認しながら構造化する。

（グラウンドKJ法、ファシリテーター：立木茂雄教授）

2) ワークショップの結果

ワークショップにより延べ100枚の意見カードが提出され、親和性を持つものを整理した結果、15のキーワードが見い出された。そしてキーワードを構造化した結果が図1である。図中の矢印は因果関係を示し、(前提となる要素や原因) → (結果として生じる要素) という方向性を表現している。構造化の結果は次のように整理できる。

- 「ゆるやかなつながりの持つ『場だから』」へ向かう要素と、そこから派生する要素がある。
- 向かう要素については、以下に示す6つの指向性がある。
 - ・「時間や金に余裕がある」ことを前提に「地域のイベントや行事が多くある」こと
 - ・「夫婦や家族に団欒と社交がある」ことを前提に「近所のこどもとのかかわりがある」こと
 - ・「地域の歴史やウリを知る」ことを前提に「地域に興味や愛着がある」こと
 - ・「長くからその土地に住んでいる」ことを前提に「近所であいさつや声かけができる」こと
 - ・「地域の歴史やウリを知る」ことを前提に「多様な住民参加ができる」こと
 - ・「共通の敵や問題がある」こと
- 派生する要素には、「互いに思いやり、信頼、親切、おせっかいをやく」ことがあり、さらにそれが「お互い助け合い友達になる」を派生させている。
- 「ゆるやかなつながりの持つ場『場だから』」とそこから派生する要素はすべて、「多様な役割を持ったメンバーからなる地域組織が継続する」ことの前提となっている。
- 「多様な役割を持ったメンバーからなる地域組織が継続する」ことと「役所がかかわり過ぎないこと」は相関関係を示している。

このように、ワークショップの結果から「ゆるやかなつながりを持つ『場だから』」を中心に、それへ向かう要素と、そこから派生する要素が全体として整理された。

地域のつながりを豊かにするために必要なことは？

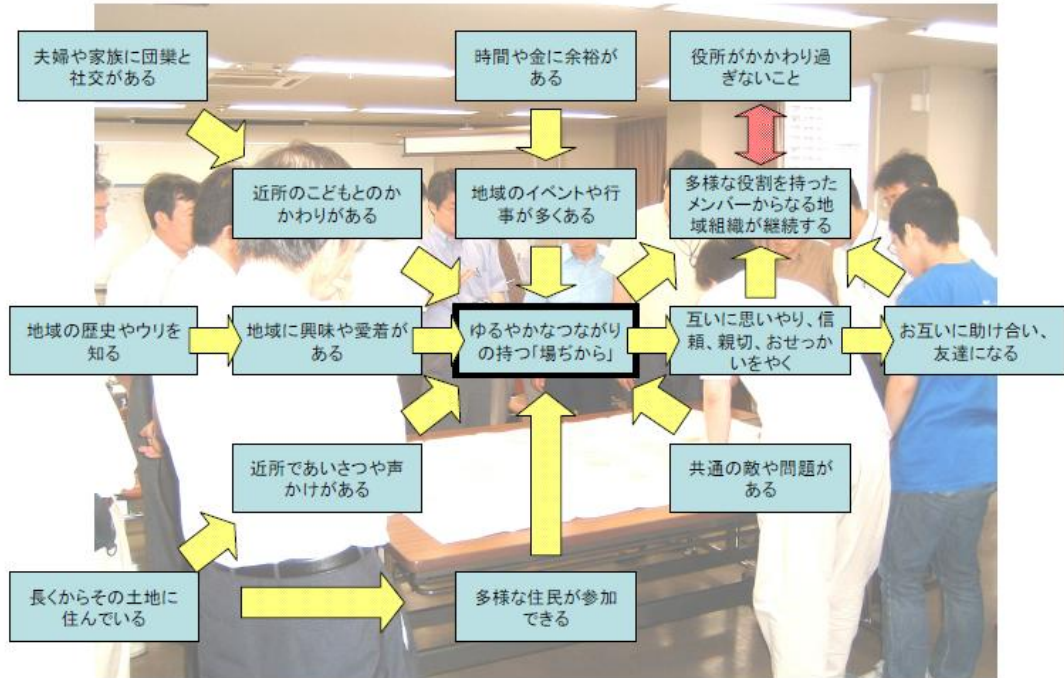


図1 「地域のつながりを豊かにするために必要なこと」の構造化

(2) ワークショップ結果の分析

これまでのソーシャルキャピタルに関する一般的な定義とワークショップの結果から、神戸においてソーシャルキャピタルが豊かであると感じられるのは、「ゆるやかなつながりのもつ『場ちから』」があり、「互いに思いやり、信頼、親切、おせっかいをやく」「お互い助け合い友達になる」といったことが生じている場合であると考えられる。そこで、これらを「場ちから・ソーシャルキャピタル」と名づけることとした。そして前述したように、この「場ちから・ソーシャルキャピタル」へ向かう、要素群があった。それらのなかで因果関係を持っているもの（図中で矢印により関係性が示されているもの）を軸としてまとめ、仮に名前をつけると、以下の6つに整理される。

- ・ **地域の興味・愛着軸**：「地域の歴史やウリを知る」ことを前提に「地域に興味や愛着がある」こと
- ・ **あいさつ軸**：「長くからその土地に住んでいる」ことを前提に「近所であいさつや声かけができる」こと
- ・ **イベント軸**：「時間や金に余裕がある」ことを前提に「地域のイベントや行事が多くある」こと

- ・子どもとの関わり軸：「夫婦や家族に団欒と社交がある」ことを前提に「近所の子どもとのかかわりがある」こと
- ・多様な住民参加軸：「長くからその土地に住んでいる」ことを前提に「多様な住民参加ができる」こと
- ・共通の課題軸：「共通の敵や問題がある」こと

これらは、ソーシャルキャピタルを生み出したり、育んだりする要素を示している。一方、「場だから・ソーシャルキャピタル」を背景として、成立する要素もワークショップでは示されていた。それは以下の2つである。

- ・地域組織の継続力：「多様な役割を持ったメンバーからなる地域組織が継続する」こと
- ・自律力：「役所がかかわり過ぎない」こと

このようにワークショップでは、ソーシャルキャピタルを生み、育む要素群、ソーシャルキャピタルそのものの特質を示す要素群、ソーシャルキャピタルにより成立する要素群があることが示され、それぞれの内容が具体的に整理されることになった。

第2回ソーシャルキャピタル協働政策研究会(2006.7.8)

地域のつながりを豊かにするために必要なことは？

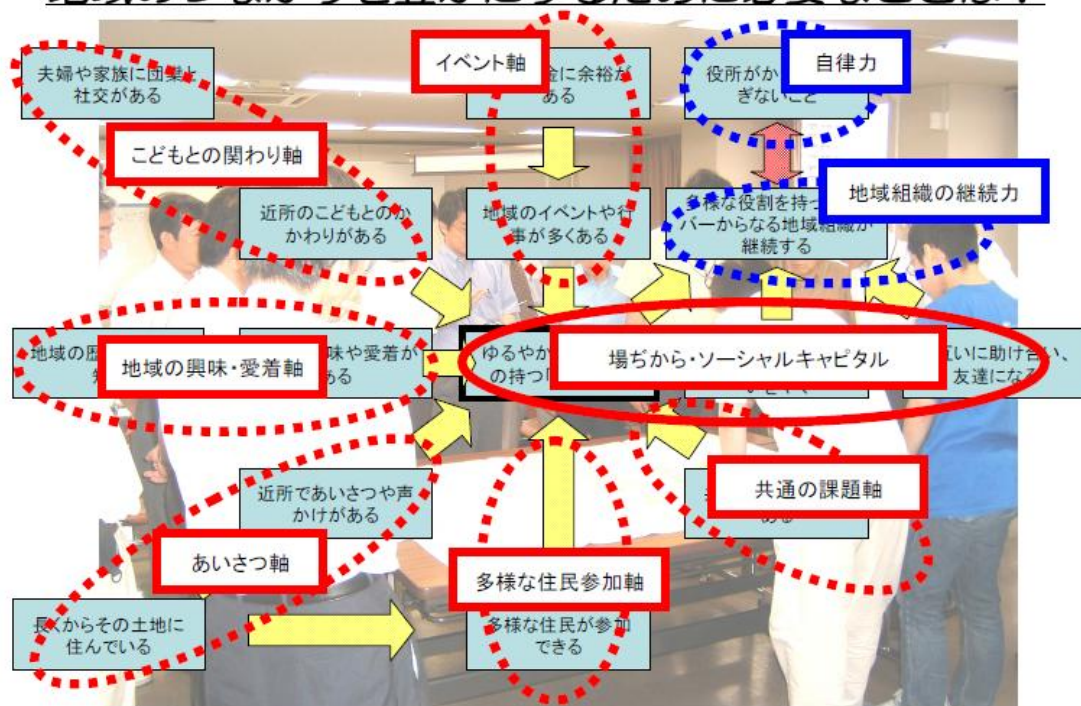


図2 ソーシャルキャピタルを構成する要素とその関連性

(3) 神戸におけるソーシャルキャピタルの構成要素（素案）

研究会メンバーによるワークショップ結果の分析から、神戸におけるソーシャルキャピタルを成立させる要素が整理された。各要素について、個別に付された具体的意見を整理したものとともに、まとめる。

【ソーシャルキャピタルを生み、育む要素】

1) 地域の興味・愛着軸

地域の歴史やウリを知り、それが地域への興味や愛着に結びついていること

〈具体的内容〉

- ・ 地域の歴史やウリ（特質）に住民が共通の関心を持ち、知っていること
- ・ 地域の情報を共有できる場所や方法があること
- ・ 地域の中に愛せるものや自慢のできるものがあること

2) あいさつ軸

長くその地に住み、近所であいさつや声かけがあること

〈具体的内容〉

- ・ 転居が少なく持ち家の世帯が多いこと
- ・ 多世代が住める家が多いこと
- ・ 住民同士であいさつや声かけが自然に行える関係があること

3) イベント軸

住民に時間や金の余裕があり、地域のイベントや行事がたくさんあること

〈具体的内容〉

- ・ 勤務時間外（朝夕）を地域で過ごせるゆとりがあること
- ・ 昼間に地域で生活できる時間を持つこと
- ・ 自由に使える小金が住民や地域にあること
- ・ 多世代の地域住民が興味を持ち参加できる行事やイベント、会合などが多くあること

4) 子どもとの関わり軸

夫婦や家族に団欒と社交があり、近所の子どもの関わりがあること

〈具体的内容〉

- ・ 夫婦や家族に団欒があること
- ・ 夫婦や家族が家の中だけにこもらず、戸外に出ること
- ・ 近所の子どもの会話や注意などの関係を築けること

5) 多様な住民参加軸

多様な住民が参加できること

〈具体的内容〉

- ・ 様々なタイプの人が入っていること
- ・ 若者や新規参入者、婦人やリタイヤした人などが入りやすい雰囲気をもっていること

6) 共通の課題軸

共通の敵や問題があること

〈具体的内容〉

- ・ 誰もが巻き込まれる共通の課題があること

【ソーシャルキャピタル自体の特質を示す要素】

○場ちから・ソーシャルキャピタル

i) 気軽に立ち寄れ、お喋りや飲み食いができる場所があること

〈具体的内容〉

- ・ 多様な人が気軽に集まれる場所があること
- ・ お喋りがワイワイできる場所や雰囲気があること
- ・ 会話や飲み食いを共にできる関係があること

ii) お互いに思いやりや信頼があり、親切でおせっかいをやく関係があること

〈具体的内容〉

- ・ お互いに信頼を持ってつきあえる関係があること
- ・ 思いやりの心や親切心を持ち合えること
- ・ 根回しをしたり注意をしたりするおせっかいな人や関係があること

iii) お互いに助け合うことのできる友達がいたりできたりすること

〈具体的内容〉

- ・ 地域の人と助け合える関係が築かれていること
- ・ 地域の中で自分が認められているという感覚を持てること

【ソーシャルキャピタルにより成立する要素、或いはソーシャルキャピタルを継続させる要素】

1) 地域組織の継続力

多様な役割を持ったメンバーからなる地域組織があること

〈具体的内容〉

- ・世話好きなリーダーがいること
- ・多様な推進役がいること
- ・多世代の繋がりをつけられる人がいること
- ・リーダーをサポートできる人々がいること

2) 自律力

役所が地域と適度な距離を持ち、関わり過ぎないこと

〈具体的内容〉

- ・地域への支援や関わり方において、行政が適度な距離感を保つこと